



アジア・太平洋総合研究センター
Asia and Pacific Research Center

ASEAN科学技術イノベーション行動計画と 主要6カ国のSTI政策

2026年 1 月

国立研究開発法人科学技術振興機構
アジア・太平洋総合研究センター

目次

はじめに――背景・目的	p.2
1. APASTIの沿革とAPASTI 2026-2035の概要	p.3
1. APASTI (旧APAST) : 概要と沿革	p.4
2. APASTI 2026-2035 : 構成と概要	p.5
3. APASTI 2026-2035 : 改善点	p.6
4. APASTI 2016-2025の振り返り : 自己評価	p.7
5. APASTI 2016-2025の振り返り : 今後の課題	p.8
参考 : ASEAN STI関連組織図と対外協力	p.9
2. ASEAN主要6カ国のSTI政策の概要	p.10
1. ASEANと加盟国によるSTI政策の位置付け	p.10
2. ASEAN主要6カ国の各国STI政策の概要	p.11
参考 : ASEAN加盟国の主要経済指標	p.18
まとめ	
1. ASEAN主要6カ国のSTI政策の特徴	p.19
2. APASTI 2026-2035とASEAN主要6カ国のSTI政策の関係	p.20

はじめに——背景・目的

背景

- 2025年7月、ASEAN (東南アジア諸国連合) により新たな10カ年の科学技術イノベーション行動計画 (APASTI2026-2035: ASEAN Plan of Action on Science, Technology and Innovation 2026-2035) が発表された。
- APASTI2026-2035は、APASTI2016-2025の後継となる行動計画であり、今後10カ年のビジョンと目標を掲げ、加盟国の直面する共通課題の対応指針を示した文書である。世界主要国が東南アジア地域とのSTI連携を模索するなか、日本にとっても注目に値する。

目的

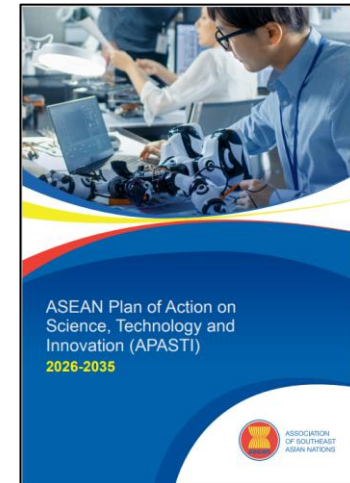
- APASTI2026-2035とASEAN主要6カ国のSTI政策の概要を明らかにし、ASEANおよび加盟国の過去10年間の成果と課題を整理することで、東南アジア地域がSTI分野において目指す今後の展望を明らかにする。



1 APASTIの沿革と APASTI 2026-2035の概要

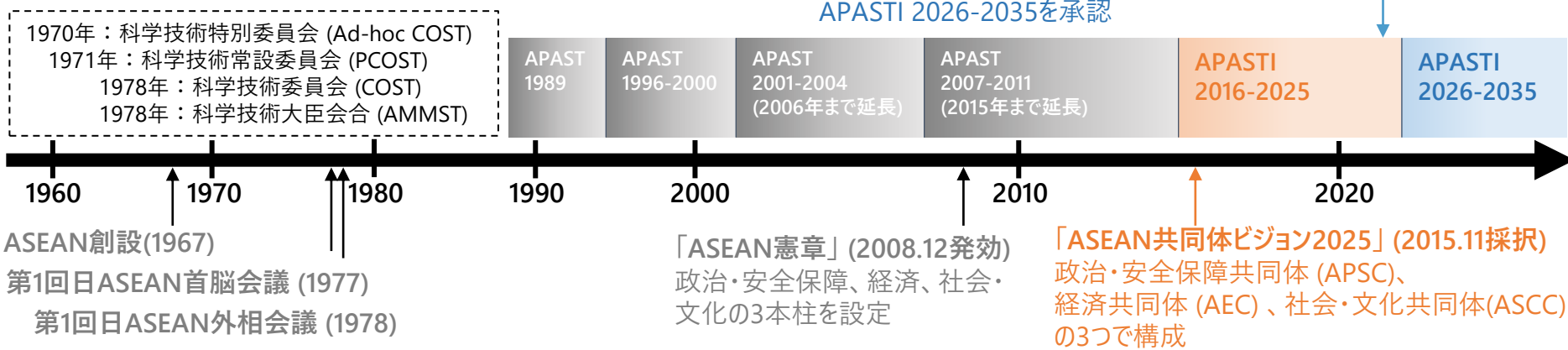
1.1 APASTI (旧APAST) : 概要と沿革

- STI政策は、特に**経済共同体 (AEC) の戦略文書と連動**して策定される。経済発展に結び付く科学技術の振興を目的として、ASEAN全体の向かうべき方向性を示す。
- 「行動計画」はASEANの共通課題への対応、**包括的ビジョンと目標を提示**。具体的行動は「実施計画」で別途定め、指標に基づいて達成を評価。
- 10年間の行動計画・実施計画はともに、**COSTIが策定し、大臣会議 (AMMSTI) が承認**している。また毎年のSTI政策の実施については、AMMSTIにおいてその基本方針が決定される。**合意事項の非拘束化等 (ASEAN Way)** の特徴を有する。
- APASTIには、AEC戦略計画と関連文書を中心に、ASEAN、APSC、ASCCの関連文書も反映される。



APASTI 2026-2035

ASEANとAPASTI (旧APAST)の沿革



出典：ASEANウェブサイト等を元に整理。

1.2 APASTI 2026-2035：構成と概要

- **ビジョン**：STIを原動力に、ASEAN域内連携、グローバル競争力、持続可能性、経済成長を促進・強化し、ASEANの繁栄する未来を築く。

APASTI 2026-2035 フレームワーク					
共同体ビジョン	行動志向	持続可能性	進取性・大胆さ・革新性	機敏さ・強靱性	包摂・参加・連携
戦略的目標	①技術革新と継続的な開発・発展の促進。	②気候変動に対応したSTI政策の主流化と実践。	③DX・先端イノベーション等、セクター間協力強化。	④サプライチェーンの安定化・強靱化、持続可能な資源管理の推進。	⑤地域連携強化。
取り組みの対象と戦略的施策	企業および個人の域内流動性の促進など。	持続可能な農業慣行と森林管理を促進、ブルーエコノミーでの協力推進など。	デジタルとテクノロジーの革新の加速、中小零細企業 (MSMEs) の地域・世界のバリューチェーンへの統合を強化、イノベーションエコシステムの前進など。	食料安全保障の確保と水資源管理の強化など。	産官学民連携の強化など。
横断的な施策 (戦略的目標を補完)	・脱炭素化、循環型経済、ブルーエコノミー		・地域連携	・ソーシャル・インクルージョンとジェンダー主流化	

実施

効果を38種の指標で評価 & 重要戦略の成果物を個別指標で評価

今後10年で戦略項目と優先課題の実現を目指す

1.3 APASTI 2026-2035：改善点

- 「APASTI 2026-2035」の実施に際しては、下記の点について改善を図る。

改善点	具体的内容
組織体制の合理化を通じた機能強化	<ul style="list-style-type: none">2026年6月までに、新行動計画に合わせて小委員会を再編予定。ASEAN事務局との連携も強化。
資金調達の戦略的实施と機能強化	<ul style="list-style-type: none">資金調達戦略：①ASEAN科学技術イノベーション基金 (ASTIF) をはじめとする内部基金の規模拡大；②資金源の多元化；③透明性・明確性・可視性の向上；④優先順位と配分比率の改善。機能強化方式：①専任人材の配置と当該人員の能力向上；②協力・調整・統一化。
政策過程における明確な役割分担・コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none">意思決定、実施、資金調達、政策立案、受益(者)各々におけるステークホルダーの役割を明確化。
モニタリング・評価の定期化	<ul style="list-style-type: none">評価指標を用い、プロセスレビュー、中間レビュー、最終レビューを実施し、適時改善を図る。
設定目標以外の課題や「APASTI 2016-2025」での検討課題への対応	<ul style="list-style-type: none">行動計画の一貫した導入、協調的な実施方法、資金調達・リソースの確保、平等な参加と利益配分、ジェンダー平等と社会的包摂、プロジェクト管理、加盟国間のコミュニケーションと異文化理解。

出典：APASTI 2026-2035, pp.38-49.

1.4 APASTI 2016-2025の振り返り：自己評価

大きな実績・進歩を確認した領域

- ASEAN加盟国と外部パートナー間の**地域連携の強化**
- クリーンエネルギー、技術・データ、食品科学、人材流動性等の**世界的トレンドとの密な連携**
- STIイニシアチブ実施における**官民連携 (PPP) の拡大**
- 重点分野における**旗艦プログラムの成功裏な実施**
- **能力構築と知識移転の強化**

出典：APASTI 2026-2035, p.11.

今後「APASTI 2026-2035」で優先的に対応する領域例

- **ASEAN高度人材交流ネットワークの構築**
 - 例：ASEAN Talent Pool (プラットフォーム) による求人情報・人材情報・会議情報等の提供。
- **ASEAN蓄電池安全ネットワークの構築**
 - 地域を挙げたエネルギーシフト・脱炭素化の推進に不可欠な技術の1つ。
 - 例：ASEAN蓄電池安全性&イノベーションカンファレンスやASEAN蓄電池技術カンファレンス等の開催。
- **ASEAN加盟国の研究を支援する高性能コンピューティング (HPC) インフラの整備**
 - タイとシンガポールを除き整備が遅れ、データ科学や人工知能 (AI) の競争力を低減。
 - 例：ASEAN・韓国協力基金 (AKCF) によるHPCの建設、科学技術知識情報サービス (NTIS) プラットフォームの構築、研修 (HPCとAIの活用) 等の支援。

1.5 APASTI 2016-2025の振り返り：今後の課題

■ 加盟国間のSTI能力の不均衡とインフラ格差

- 特にシンガポールとCLM (カンボジア、ラオス、ミャンマー) の間でSTI能力・インフラに大差。
- 加盟国間の不均衡なSTI能力は、同等技術を要する地域政策の実施を制限。

■ 加盟国間のコラボレーション不足

- 政策と優先課題、行動計画への認識の不一致が、連携を阻害。
- 質の高い研究成果不足、データ収集方法の非一貫性が、情報共有を困難に。
- 未成熟な産学連携が、研究成果の商用化・実用化を制限。

■ 外来技術への依存

- 半導体やソフトウェアを輸入する等、先端技術知識を域外に依存し、その影響下に。

■ DEI (Diversity, Equality, Inclusion) の未達成

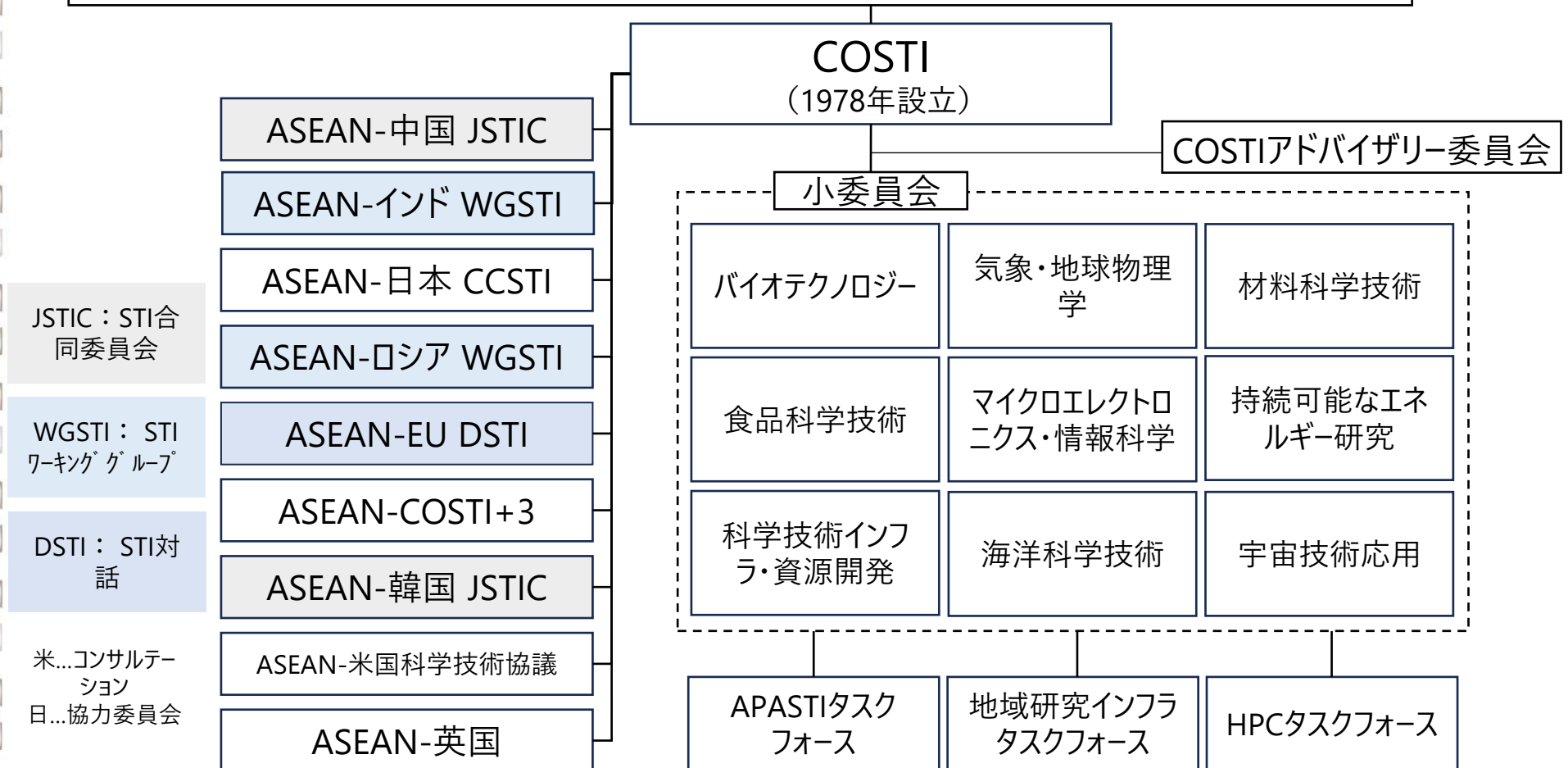
- DEIの未達成は人材育成に影響し、経済的利益やイノベーションの機会を低減。
- 経験不足、金融サービスへのアクセス制限、不安定雇用、スキル開発機会の不足は、将来のSTI人材の育成を阻み、各国のSTI発展に要する市場の担い手層 (生産・消費両面で) の維持に影響。

※APASTI 2016-2025 期末レビュー (ETR)やASEAN Foresight Allianceの調査で検討された課題。

出典：APASTI 2026-2035, pp. 57-60.

参考：ASEAN STI関連組織図と対外協力

ASEAN科学技術・イノベーション大臣会合（AMMSTI）（1978年設立）



出典：ASTNET (ASEAN Science and Technology Network): <https://astnet.asean.org/structure/>
 ASEAN: <https://asean.org/our-communities/economic-community/asean-science-technology-and-innovation/>



2 ASEAN主要6力国の STI政策

2.1 ASEANと加盟国によるSTI政策の位置付け

■ APASTI 2026-2035で重視される4つの共通項目から、加盟国の政策を整理

共通項目	ASEAN	加盟国
STIと 中長期計画	<ul style="list-style-type: none">4つのAPASTからAPASTI2016~2025まで、経済発展に直結するSTIの強化を掲げる。この方向性は、APASTI2026-2035においていっそう明確化。	<ul style="list-style-type: none">経済・社会発展の中長期計画と連動したSTIの強化を推進。
研究人材の 育成・確保	<ul style="list-style-type: none">情報ポータル構築と流動性促進により、地域の研究人材を共通資源化。	<ul style="list-style-type: none">在外人材呼び戻し、共同研究拠点形成、同窓会人脈活用を通じ、国内人材の確保を画策。
STI (技術)と 経済社会課題	<ul style="list-style-type: none">広域課題 (環境・気候変動、海洋、感染症等) の戦略的目標を設定。	<ul style="list-style-type: none">産業構造の特徴や需要の高い技術に沿い、特定分野を振興・育成。
研究協力	<ul style="list-style-type: none">世界主要国・地域と全方位的にパートナーシップ対話を形成。	<ul style="list-style-type: none">強みを持つ (又は優先的な) 特定分野で、共同研究・域外からの投資促進、インフラ整備等を実施し、旗艦分野として強化。一部の国・地域とは協力の開始に留まる。

参考文献 (本調査p.12-18でも参照している)

https://spap.jst.go.jp/investigation/report_2022.html#fy25_tp01
https://spap.jst.go.jp/investigation/report_2022.html#fy23_tp02
<https://www.jst.go.jp/crds/report/CRDS-FY2023-OR-03.html>

インド・ASEANにおける欧米中との国際科学技術イノベーション協力状況
データから見るASEAN諸国の研究開発・国際連携状況と主な科学技術政策
ASEAN諸国の科学技術・イノベーション情勢 (2023年)

2.2 ASEAN主要6カ国のSTI政策

2.2.1 シンガポール

■ 高度人材を確保し先端技術の研究開発を強化、持続的な経済発展に直結

共通項目	概略	具体的取り組み
STIと 中長期計画	経済発展への寄与を 明示的に組み込み	<ul style="list-style-type: none">RIE2030: 総予算370億シンガポールドル。応用AIイニシアティブ、横断的プログラムを新設。スマート・ネイション2.0: AI技術を国家ビジョンの核心に据え、「信頼」「成長」「連帯」を掲げる。産業界からの大幅投資呼び込み: 2022年に26億星ドル (2018年対GDP比+0.2%増)、スタートアップ投資は2023年に15.6億星ドル (対2020年比で3倍超に増)。経済発展と研究の質向上の両立: 分野別重み付け被引用指標 (FWCI) *が、1.47 (2014年) から1.74 (2024年) に上昇。 * 類似の学術論文 (同じ分野、出版年、文献タイプ) と比較した被引用度を測る指標
研究人材の 育成・確保	建国以来、国家資源として最重要視。 NRFを中心に実施	<ul style="list-style-type: none">自国研究者呼び戻し (2013年～): 外国トップ機関で活躍する優秀人材を、国内要職に抜擢。世界から研究者・科学技術人材の確保を目指す。雇用許可証 (EP) に加え、海外ネットワーク専門技能ビザ (ONE Pass)、ポイント制のビザ優待評価枠組み (COMPASS) 等を新設。高等教育で、学部 (優秀な国民の育成) と大学院 (国際競争) の目的を差別化。
STI (技術)と 経済社会課題	知識集約型技術の蓄積が、通商・金融ハブ機能を高度化	<ul style="list-style-type: none">歴史的に海運・金融のGDP構成比が高い港市。マラッカ海峡の交易量は約13万隻/年。情報科学に基づいた知識集約型技術や、浄水技術等への開発に対する需要が高い。
研究協力	新興技術で欧米中と 共同研究拠点を置き、 域内で主導的地位	<ul style="list-style-type: none">CREATEキャンパス: 米MIT、英ケンブリッジ・オックスフォード大、ETH、TUM等との協力拠点米国: 新興技術対話 (2023～25年) AI・デジタル経済・バイオ・重要インフラ・防衛・量子中国: 蘇州工業園区でのA*STARパートナーシップ事業 (2022年～)、中科院とA*STARの協定欧州: EUとのデジタル連携 (2023年)、CNRSとナノ材料・量子・AI共同研究拠点 (2014年～)

参考URL

<https://www.gov.sg/explainers/parliament-refreshing-our-economic-blueprint>, <https://www.nrf.gov.sg/rie2030/>
<https://www.businesstimes.com.sg/singapore/singapores-rie2030-launch-large-scale-rd-programmes-key-sectors-strategic-priorities>
<https://www.smartnation.gov.sg/about/our-vision/sn2/>
<https://2021-2025.state.gov/second-u-s-singapore-critical-and-emerging-technology-dialogue/>
<https://www.a-star.edu.sg/News/astarNews/news/press-releases/a-star-partners-centre-launches-technology-and-innovation-partnership-programme>
<https://www.mfa.gov.sg/SINGAPORES-FOREIGN-POLICY/Countries-and-Regions/Europe>

2.2 ASEAN主要6カ国のSTI政策

2.2.2 マレーシア

■ 知識基盤型経済への変革を掲げ、AI・半導体・起業支援の制度・資金を整備

共通項目	概略	具体的取り組み
STIと 中長期計画	2030年までの計画で 科学技術+経済 (STIE) のビジョン提 示	<ul style="list-style-type: none">10×10: STIの新興10項目を社会経済の重要10項目と連動させ、生産基盤型経済から知識基盤型経済への変革を目標。2030年までに、世界20位内のスタートアップエコシステム構築を目指すロードマップを策定。ASEAN第20回STI閣僚会合 (AMMSTI-20, 2024年) で「Startup ASEAN」の設置承認を受け、2025年議長国として、その活動を主導。
研究人材の 育成・確保	英国や中国と連携し、 人材育成を推進	<ul style="list-style-type: none">英国: 開発協力プログラム (ISPF) をASEANで最初に導入、人材育成で連携。
STI (技術)と 経済社会課題	豊富な重要鉱物をも とに “Made by Malaysia” を強化	<ul style="list-style-type: none">国家半導体戦略 (NSS) の下、大規模投資を通じて国内エコシステムを強化。2025年議長国として半導体サミット (ASAMIS) 等で、川下工程のサプライチェーン統合を推進。レアアース (1,500万t超、2022年調べ) や鉄鉱石・マンガン・錫・ボーキサイト・チタンを産出。政府は第13次マレーシア計画で開発と管理を強化し、戦略資源として活用する構想。バイオネクサス企業の外国進出、外国企業誘致と製薬拡大、オイルパームの持続可能な生産。
研究協力	英国や中国と連携し、 共同研究を推進	<ul style="list-style-type: none">英国: ISPF の下で環境・ヘルスケアなどで連携。中国: 華為技術 (ファーウェイ) とマイクロエレクトロニクス研究所 (MIMOS) がMOUを締結し、AI・高速通信を含むデジタル技術で連携。また中国自動車技術研究センター (CATARC) とは自動車・ロボティクス・IoT研究所 (MARii) が次世代自動車の研究開発・試験に関するMOUを締結。

参考URL

<https://startup-asean.org/>

<https://asean-bac.org/news-and-press-releases/strengthening-asean-s-semiconductor-future-building-a-resilient-regional-supply-chain>

https://mric.jogmec.go.jp/wp-content/uploads/2023/03/trend2022_my.pdf

<https://www.eria.org/news-and-views/eria-president-urges-stronger-asean-integration-to-bolster-semiconductor-resilience>

<https://www.thesundaily.my/home/30-bionexus-status-companies-penetrates-global-market-early-this-yeararthur-BO10780076>, <https://mpob.gov.my/>

<https://www.gov.uk/government/publications/international-science-partnerships-fund-ispf>

<https://www.jst.go.jp/crds/pdf/2022/OR/CRDS-FY2022-OR-02.pdf#page=74>, <https://technode.global/2024/12/16/dr-b-hicom-geely-ink-mous-with-mida-marii-to-boost-ahtv-development/#:~:text=MARii%20is%20an%20agency%20that,transportation%20capacity%2C%20digital%20technology%20etc.>

2.2 ASEAN主要6カ国のSTI政策

2.2.3 インドネシア

- AI・再エネを含む優先課題を強化。海外留学人脈も活用し経済成長を目標

共通項目	概略	具体的取り組み
STIと 中長期計画	2045年までの高所得国入りを目指し、 STI含む優先課題を強化	<ul style="list-style-type: none">・ 国家優先課題 (PRN): 2045年までの長期計画 (RIRN2017-2045) で掲げる。・ AI×栄養学、再エネ・バイオガス、材料×ヘルスケア、建築と減災、高性能ロケット開発、海藻×機能性食品、マングローブ林保全・再生など、現地生態資源に先端技術を活用。・ 食料・ヘルスケア・海事のPRNに対応した研究事業も、大学・研究機関で進行。
研究人材の 育成・確保	欧米・日本への留学 人材ネットワークを維持・継承	<ul style="list-style-type: none">・ 海外留學生率はア・太諸国内で最も低い、対豪留学は2018年までの10年間で約3割増。・ 日本とはPERSADA (同窓会コミュニティ) で1991年以来、行政官を約3,000人輩出。
STI (技術)と 経済社会課題	ASEAN内2位の高評価な起業環境を活かし、産業競争力強化	<ul style="list-style-type: none">・ スタートアップランキングは世界45位 (StartupBlink 2024年版)。農業・ヘルスケア・グリーンなど科学技術の隣接分野で起業社数が多い。・ 課題: ジャワ島一極化是正、運営体制の統合、インキュベータなど支援事業者への資金拡充。
研究協力	英国や中国と連携し、人材育成を推進	<ul style="list-style-type: none">・ 英国: ISPF の下での人材育成で連携。・ 中国: バンドン工科大と「中国・インドネシア新エネルギー材料・冶金工学技術共同研究所」を設置し、両分野の共同研究拠点として活動を展開。

参考URL

<https://www.lpmu.upj.ac.id/userfiles/files/RENCANA-INDUK-RISET-NASIONAL.pdf>

https://spap.jst.go.jp/investigation/downloads/2023_rr_07.pdf#page=73 JST/APRCインドネシア調査 表9 (大学・研究機関ごとのPRN)

<https://lp.startupblink.com/report/>

<http://dx.doi.org/10.22617/TCS230176-2>

<https://itb.ac.id/news/itb-jatinangor-launches-china-indonesia-joint-research-laboratory-for-new-energy-and-metallurgical-engineering/61545>

2.2 ASEAN主要6カ国のSTI政策

2.2.4 タイ

- バイオに加えナノ材料等でも投資を誘致。人材も確保し産業構造の転換を目標

共通項目	概略	具体的取り組み
STIと 中長期計画	BCGモデルを2027年までの行動計画で示し、 タイ4.0 へ転換	<ul style="list-style-type: none">・ バイオ・循環型・グリーン経済 (BCG) モデル: 2019年から継続的に提唱。農業・食品、ヘルスケア、エネルギー・材料・生化学の各分野でGDPを増進。・ ナノテクノロジー: 2010年から継続的にロードマップ発表。2023年から投資恩典制度の対象へ。・ タイ4.0: BCGを跨ぐ観光経済・循環型経済を共に強化し、イノベーション主導型経済へ転換。
研究人材の 育成・確保	「 域内人材交流 」を促進し、国内の高度人材を確保	<ul style="list-style-type: none">・ タレント・タイランド連合: 世界中のタイ人高度人材のプロフィールを登録し、分野別・出版物別のマッチング、職業訓練情報の集積・提供を行う。・ 人材交流をASEANの重点課題として担い、加盟国を横断した人材情報網を構築・提供。特に、AI登載型機器などの半導体関連産業を支える高度人材を育成・確保。・ 特定技術の専門家や条件該当者を対象に、長期滞在ビザLTRを発行開始 (2022年～)。
STI (技術)と 経済社会課題	AI・半導体 へ着手	<ul style="list-style-type: none">・ 国家半導体委員会を設置 (2024年10月): 高度人材育成や外国企業誘致の計画を策定。・ 倫理的AIの推進: 2025年より、機関設置・大規模投資・人材育成を本格開始。
研究協力	欧米を主とした国際連携を継続	<ul style="list-style-type: none">・ 対米科学技術協定の更新延長 (2024)、メコン・米国パートナーシップの継続 (2020～)。・ マヒドン大学医学部と英・仏の研究機関との、熱帯感染症およびワンヘルスの共同研究。・ 中国と「中国・タイ 気候・海洋生態系共同研究所」を設置し、海洋環境・気候変動に関する共同研究等を実施。

参考URL

<https://spap.jst.go.jp/resource/pdf/aprc-fy2023-pd-tha01.pdf>
<https://smart-visa.boj.go.th/smart/index.html>
<https://talent.nxpo.or.th/en/home>
https://www.boj.go.th/upload/content/BOI_A_Guide_JP.pdf
<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2025/08e65a8d030e975d.html>
<https://www.casiccb.com/>

2.2 ASEAN主要6カ国のSTI政策

2.2.5 ベトナム

■ デジタルインフラの標準化を進め、関連技術分野の研究力を高め人材を育成

共通項目	概略	具体的取り組み
STIと中長期計画	STIに加え、DXを国家発展の柱とする	<ul style="list-style-type: none">STI法の制定 (2025年10月施行)。リスク管理・インフラ投資・企業のイノベーション活動推進。新興・基盤技術 (半導体・AI含む)、ブルーエコノミーなど11の戦略技術グループを指定。デジタル政府や国家全体のアーキテクチャ枠組みを発表し、デジタルインフラを標準化。
研究人材の育成・確保	重点分野でSTI人材を多数育成	<ul style="list-style-type: none">ASEAN最大の留学生供給源。2015年以降、対米留学数で上位10カ国2.0%以上を維持。近年は半導体・AIなどの重点分野で、企業内大学の設置など、国内育成も推進。
STI (技術) と経済社会課題	半導体・AIを支える計算機科学等の研究力が急伸	<ul style="list-style-type: none">2010年代より数学・計算機科学が伸長、人工知能 (AI) や分子遺伝学の研究が蓄積。製造業 (電気・電子機器) と農業の比重が高い産業構造。製造業への旺盛な対内直接投資は、デジタル関連技術の発展とDXの基盤強化を促進。
研究協力	AI・半導体で主要国との国際連携を強化	<ul style="list-style-type: none">上記重点分野を中心に、フランスとの機関協力、中国・米国との国際連携を強化。

参考URL

<https://opendoorsdata.org/data/international-students/>
<https://english.mst.gov.vn/national-framework-for-digital-architecture-issued-197251017092913431.htm>
https://www.mext.go.jp/content/20240712-mx_kankyuu-000037033_2.pdf
https://spap.jst.go.jp/investigation/downloads/2021_br_05.pdf#page=76
<https://www.jetro.go.jp/world/asia/vn/gtir.html>

2.2 ASEAN主要6カ国のSTI政策

2.2.6 フィリピン

■ 国民福祉の向上と共に、重要課題として水資源管理やAI・再エネなどに注力

共通項目	概略	具体的取り組み
STIと 中長期計画	高福祉の群島国家 建設を提示	<ul style="list-style-type: none">2050年までの長期計画「PAGNATAW」で、国民福祉の向上と、水・ICT・エネルギーを含む核心12分野を指定・強化。
研究人材の 育成・確保	ELEV8PH (国家発展のための科学技術 フロンティア推進プログラム) を促進	<ul style="list-style-type: none">2025年2月、DOST が立ち上げ発表。農業、医療、製造業など主要セクターにおける社会課題に対し、新興技術・先端技術を用いて社会変革を促す R&D プログラムを開始。これにより、STEM研究を“国の優先課題の解決”と結びつけ、当該分野研究者の育成・参加を促進。
STI (技術) と 経済社会課題	水質管理・水浄化技術を政策的に注力。 また、他の加盟国が注力するAI等も推進	<ul style="list-style-type: none">水質管理・水浄化技術: 海に囲まれた群島国家だが、水資源の不均等配分が社会的課題。国家開発計画2023-2028で、統合的な水資源管理への改革を表明。AI: 「国家AI戦略ロードマップ (NAISR 2.0)」の策定 (2024年7月)、国家優先課題に対応するAIの開発や人材育成、責任ある研究開発 (ACCORD) (2025年8月、先端科学技術研究所)。再エネ: 国家エネルギー計画 (2020-2040) で、2040年までの再エネ比率向上 (50%)、脱炭素化を宣言。
研究協力	Balik Scientist Program (帰国科学者プログラム) を強化し、帰国研究者を受け入れ	<ul style="list-style-type: none">国内外で研鑽を積んだフィリピン人科学者・研究者の帰国と、国内研究機関や大学での任用を促進。2025年にも多数の帰国を促し、教育・研究・産学連携の強化に貢献。

参考URL

<https://nast.dost.gov.ph/index.php/pagtanaw-2050>

<https://www.dost.gov.ph/knowledge-resources/news/86-2025-news/3905-quantum-computing-ai-and-smart-agri-to-elevate-ph-s-innovation.html>

https://erikalegara.com/uploads/NAISR2.0_July2024.pdf

https://wepa-db.net/wp-content/uploads/2024/02/PM07_0130_country-update_PHL-1.pdf

<https://depdev.gov.ph/wp-content/uploads/2024/05/Policy-Note-on-the-Philippine-Water-Sector.pdf>

<https://www.pna.gov.ph/index.php/articles/1234811>

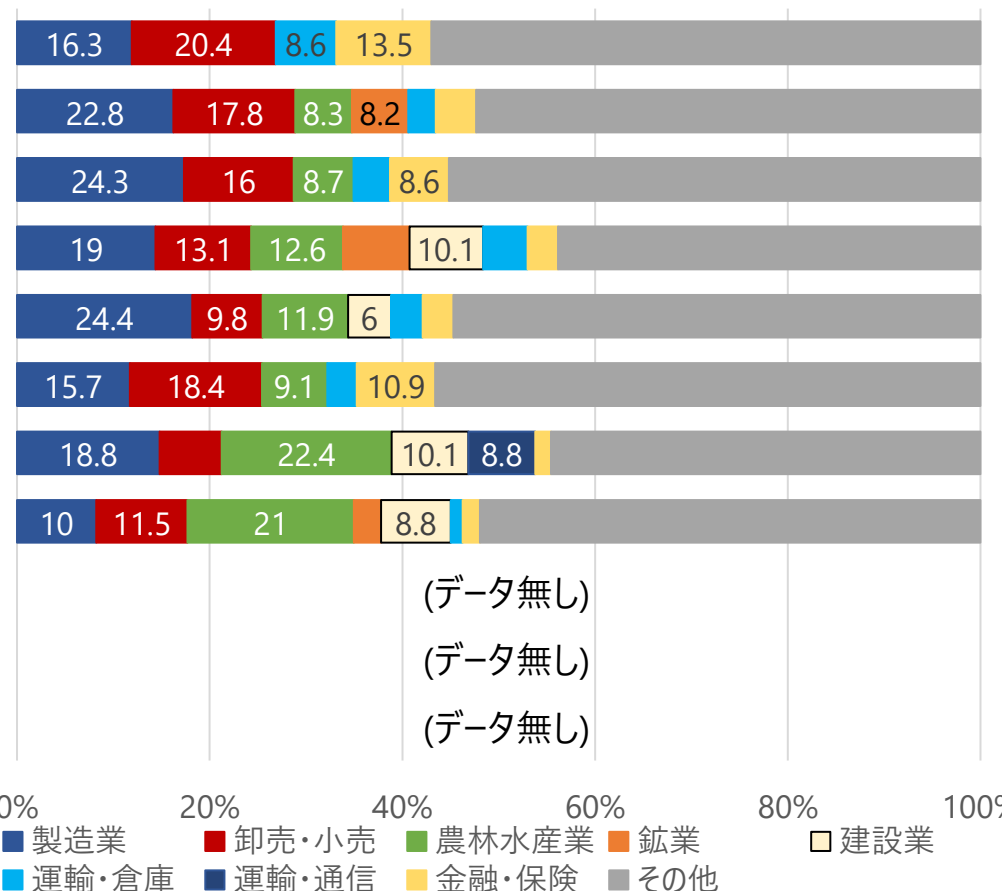
<https://legacy.doe.gov.ph/sites/default/files/pdf/pep/PEP-2020-2040-Final%20eCopy-as-of-15-June-2023.pdf>

参考：ASEAN加盟国の主要経済指標

国名	一人当たりGDP (PPP, US\$)	GDP(PPP,人口十億US\$(百万人)	実質GDP成長率 (%)	域内直接投資 (百万US\$)2023	
シンガポール	90,674	910	6	4.4	159,630
マレーシア	12,541	1,377	34	5.1	8,782
タイ	7,492	1,771	66	2.5	8,053
インドネシア	4,960	4,663	284.4	5	22,040
ベトナム	4,536	1,655	101.3	7.1	18,500
フィリピン	4,079	1,366	109	5.7	9,116
カンボジア	2,755	141	17.3	6	3,959
ラオス	2,066	76	7.7	4	1,781
ミャンマー	1,114	327	57.5	△1.1	2,204
ブルネイ	-	42	0.4	-	△57
東ティモール	-	1.8 (2023)	1.4 (2023)	△18.1 (2023)	-

名目GDPの主な産業別構成比 (%)

* 値を示したものは当該国の上位4産業。カンボジアは2022年、ラオスは2023年



* 一人当たりGDPの高い順に配列 (△はマイナス値、「-」はデータ無し)

まとめ1：ASEAN主要6カ国のSTI政策の特徴

- 科学技術の振興と経済社会発展の直結を明示。
- 重点分野での人材育成・確保や、人材交流を通じた研究協力を展開。

共通項目	主要6カ国のSTI政策の特徴
STIと 中長期計画	科学技術の振興と国家発展の直結を明示。もしくは、国家発展の中心に科学技術を位置付け <ul style="list-style-type: none">➢ シンガポールでは、科学技術力の強化で着実な経済成長を実現。ベトナムでは、DXを国家発展の柱に位置付け。➢ マレーシア・インドネシア・フィリピンでは、長期目標として「高所得国入り」をも掲げる。
研究人材の 育成・確保	どの国も科学技術振興の中心に位置付け <ul style="list-style-type: none">➢ シンガポールでは、人材を国家資源として最重要視。多彩な招聘制度・奨学金・呼び戻し策を講じ戦略的に確保。➢ タイでは、ASEAN域内人材交流の促進も担い、自国の関連施策や中期計画にも組み込み。➢ インドネシアでは、欧米・日本への留学人材ネットワークの維持に注力。
STI (技術)と 経済社会課題	知識基盤型経済への転換を目標。起業促進によるイノベーション力強化も進展 <ul style="list-style-type: none">➢ シンガポールでは、先端技術が通商・金融ハブ機能を高度化 (フィンテック等)。➢ シンガポール、マレーシア、ベトナムを筆頭に、AI・半導体の製造拠点・人材ハブとして著しく発展。
研究協力	欧米および中国の双方と国際連携・共同拠点設置・人材育成を推進 <ul style="list-style-type: none">➢ シンガポールでは、新興技術で欧米中と共同研究拠点を置き、域内で主導的地位を確立。➢ ベトナムのように、AI・半導体に絞って主要国との国際連携を強化する国も存在。

まとめ2：APASTI2026-2035とASEAN主要6カ国のSTI政策の関係

- 主要6カ国ともに、地域固有の社会経済環境や生態資源の特徴を活かして、ASEANが掲げる5つの戦略的目標に沿って、それぞれSTIを位置付け・重点化。

APASTI2026-2035の戦略的目標	主要6カ国のSTI政策における関係性
①技術革新と継続的開発の促進	6カ国とも高い経済成長を維持、その原動力としてSTIを推進・活用 ➤ STI強化で、既に高水準の経済を更に高度化、または将来のGDP・国民福祉を向上
②気候変動に対応したSTI政策の主流化・実践	6カ国とも環境・エネルギー（再エネ）・海洋資源の保全を重点分野に位置付け ➤ グリーン経済（循環経済）：環境配慮型のデジタル技術、生態資源の活用。 ➤ 再エネ：バイオマス発電などのエネルギーシフトを促進。 ➤ ブルーエコノミー：海洋資源保全の優先課題化と、国際共同研究の実施。
③DX・先端イノベーション等、セクター間協力強化	産学連携、大企業とスタートアップの連携、起業を促進 ➤ ②の重点分野を含むスタートアップが活躍し、活力ある社会経済活動を実施。
④サプライチェーン安定化・強靭化、持続可能な資源管理	欧米および中国の双方と連携し、環境・社会両面で安定的な供給網を確立 ➤ 欧米中諸国と全方位的に国際協力を結び、特定国への依存を抑制。
⑤地域連携強化	STIに関わる多様なプレーヤー・ステークホルダーの参画を促進

調査担当：斎藤 至 (アジア・太平洋総合研究センター フェロー)、渡辺 浩司 (アジア・太平洋総合研究センター フェロー)

トピック調査

APRC-FY2025-TP-02

ASEAN科学技術イノベーション行動計画と主要6カ国のSTI政策

ASEAN Action Plan on Science, Technology and Innovation and the STI Policies of ASEAN6

2026年1月発行 Published in January 2026
ISBN 978-4-86829-032-2

本報告書に関するお問い合わせ先：
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）アジア・太平洋総合研究センター（APRC）
Asia and Pacific Research Center, Japan Science and Technology Agency
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町
Tel: 03-5214-7556 E-Mail: aprc@jst.go.jp
<https://www.jst.go.jp/aprc/>

Copyright © Japan Science and Technology Agency

本書は著作権法等によって著作権が保護された著作物です。著作権法で認められた場合を除き、本書の全部又は一部を許可無く複製することを禁じます。転載を希望される際は、事前に上記お問い合わせ先迄ご連絡ください、引用を行う際は、必ず出典：JST/APRCレポート「ASEAN科学技術イノベーション行動計画と主要6カ国のSTI政策」として記述願います。

This report is protected by copyright law and international treaties. No part of this publication may be copied or reproduced in any form or by any means without permission of JST, except to the extent permitted by applicable law. Any quotations must be appropriately acknowledged. If you wish to copy, reproduce, display or otherwise use this publication, please contact APRC.